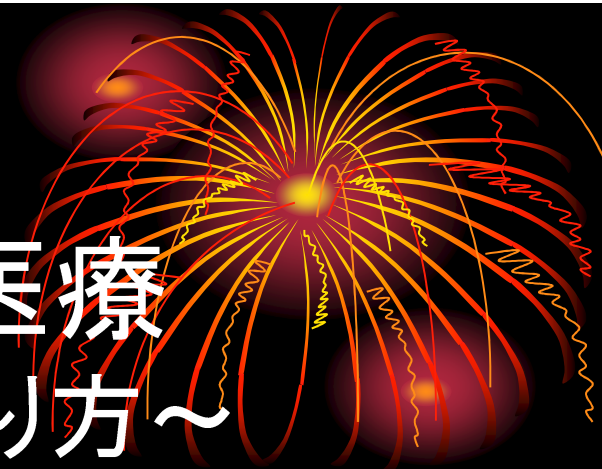


第一回市民公開講座

みんなで支え合う救急医療
～上手な医療機関へのかかり方～



救急医療は医療の原点である。

地域の医療は、地域の医療従事
者と住民が創りだすもの。

井原市立井原市民病院

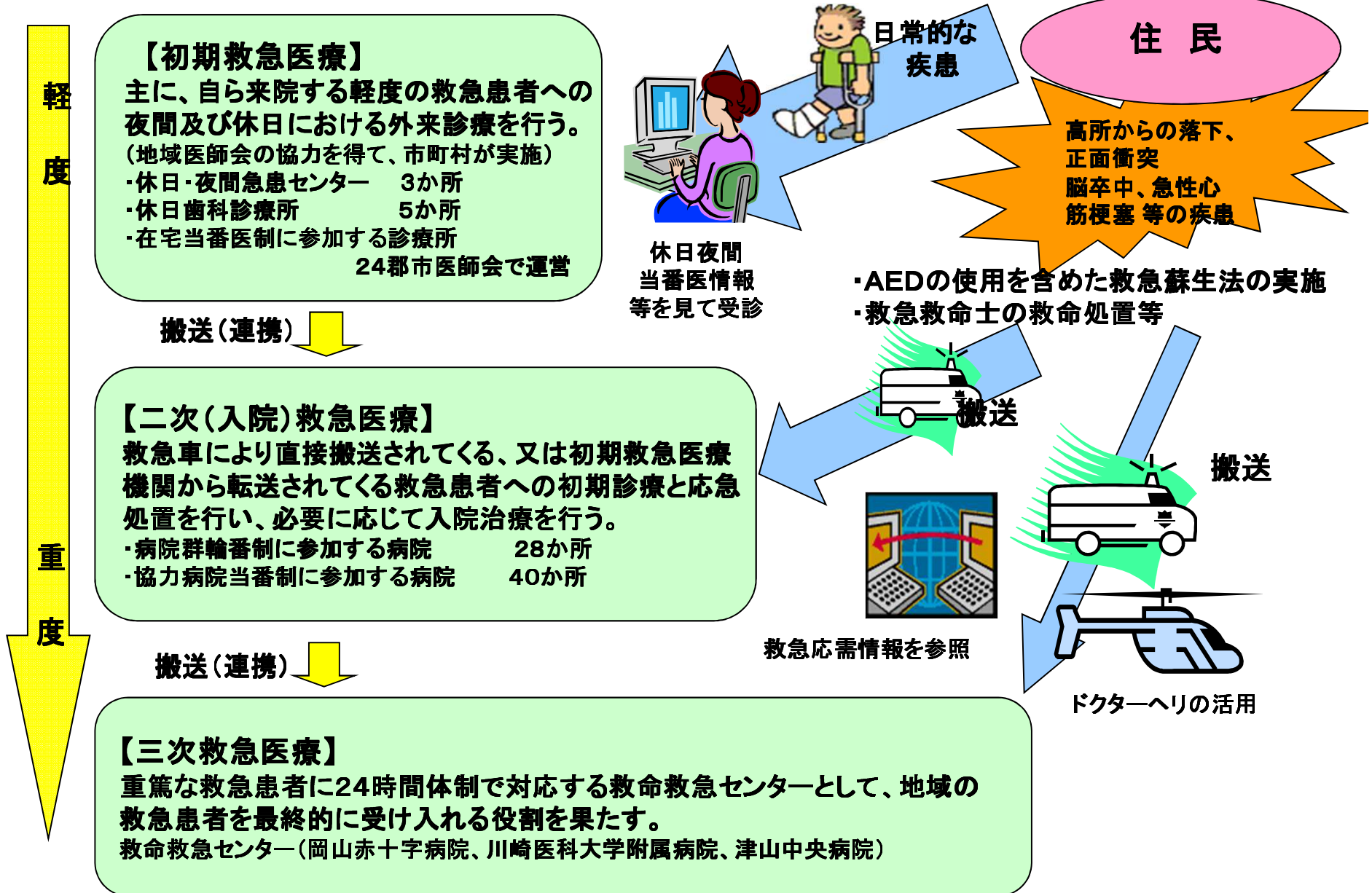
山田 信行

今日の話の内容

- 日本の救急医療体制の現状と問題点
- 井原市の初期救急医療の現状と問題点
- 井原市民病院における救急医療の現状と問題点
- まとめ

日本の救急医療体制の現状と問題点

都道府県の医療計画における救急医療機関



現在の救急医療の問題点

- × 救急医療機関（病院、診療所）の救急診療からの撤退、辞退による救急医療崩壊
- × 理由は
 - （1）医療費抑制政策
 - （2）医師、看護師不足
 - （3）医師をはじめとする医療従事者の過酷な労働現場、労働時間
 - （4）患者の高度医療や専門医療の要求と医療訴訟の増加
 - （5）救急診療を支えてきた医師の高齢化と医療施設の老朽化

救急医療の崩壊

初期救急医療機関の減少



二次救急医療機関へ受診する軽症患者の増加



二次救急医療機関のスタッフが疲弊



二次救急医療機関の崩壊



三次救急医療機関へ受診する軽症患者の増加

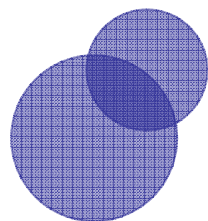


重症患者への診療密度が低下し、入院ベッド（空床）も減少



三次救急医療機関としての機能喪失

井原市の初期救急医療の現状



時間外に直接医療機関に受診した患者調査 (平成24年11月診察分)

井原医師会

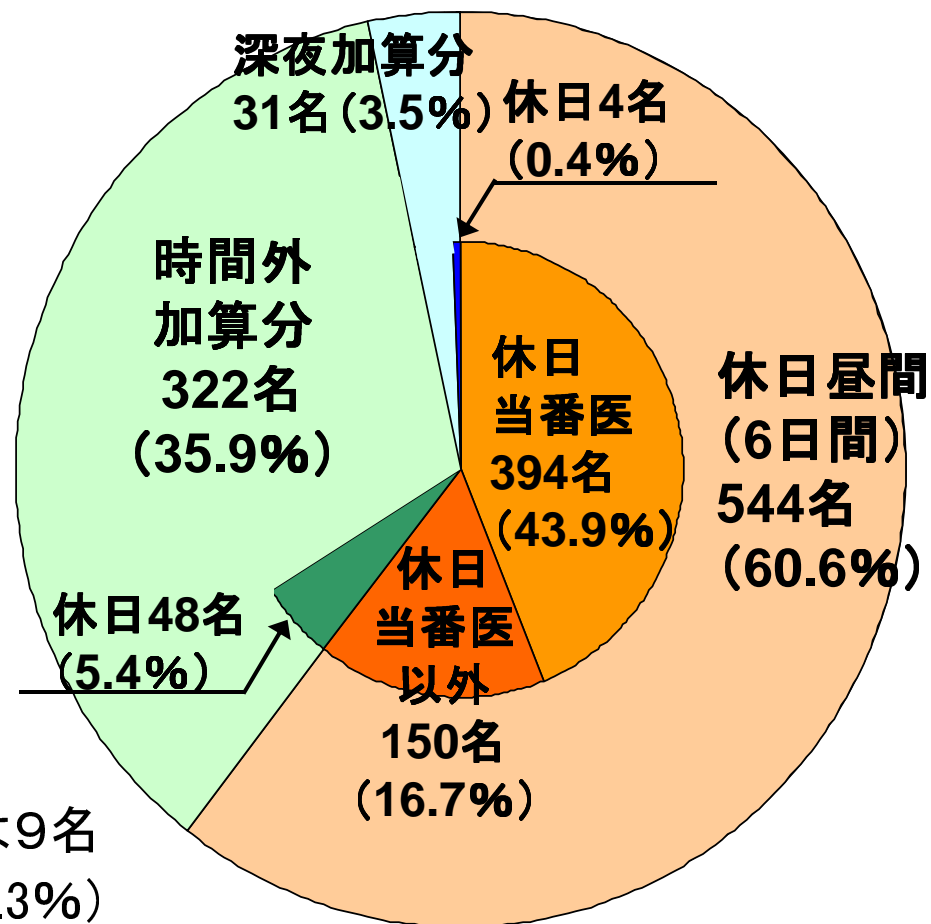
全症例数: 897名

うち 緊急対応を要した人数(再掲)

83名(9.3%)

入院を要した人数(再掲)

37名(4.1%)



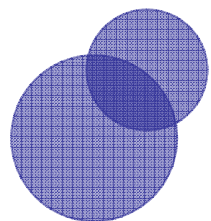
- ・ 平日深夜に受診した患者さんの約3割は入院
- ・ 井原市以外の病院に紹介した例は9名(全症例の1.0%)(要入院患者の24.3%)

※ 時間外: 土・日・休日の昼間と夜間、平日の17時30分～翌日8時

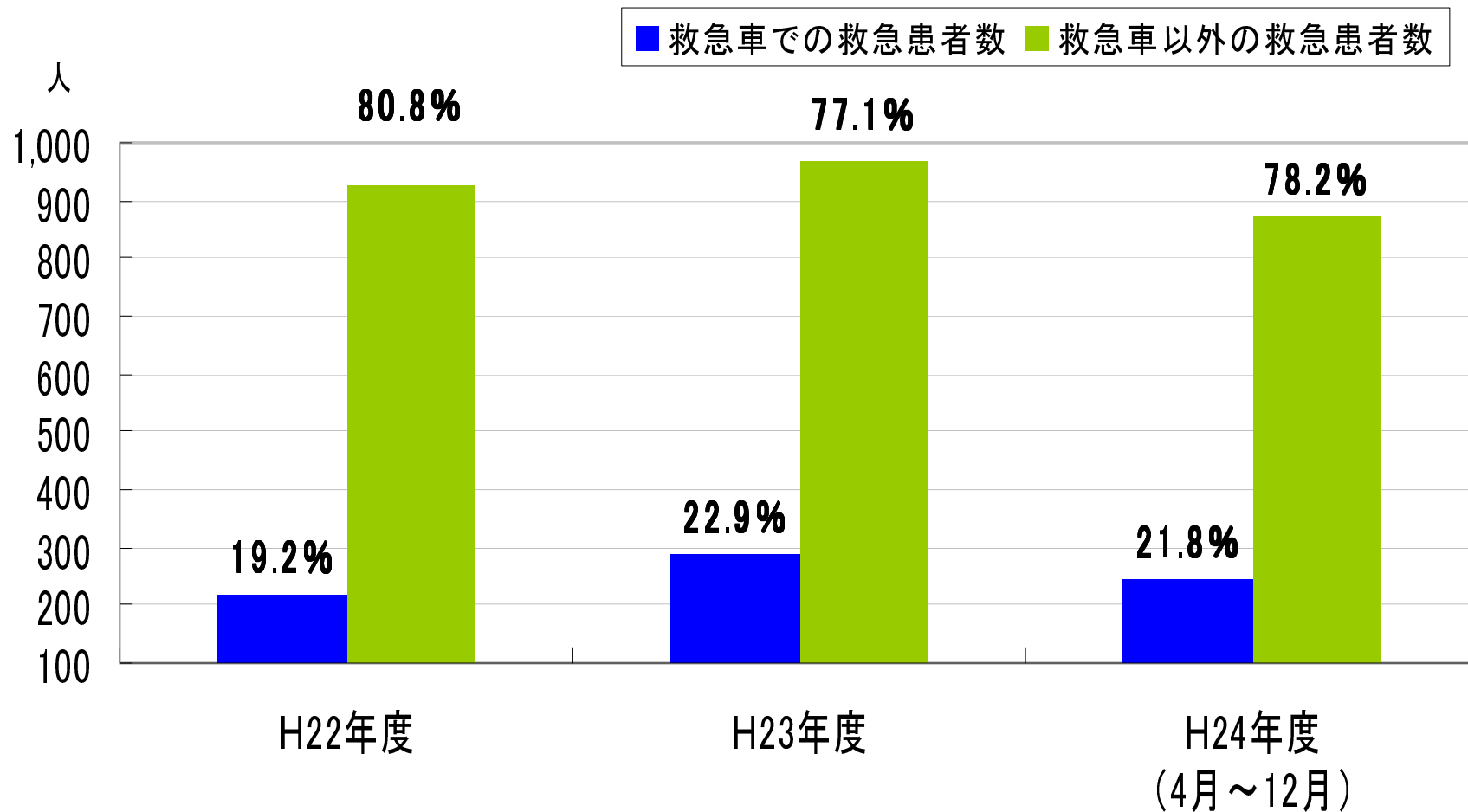
井原市民病院における 救急医療の現状と問題点

井原市民病院の日・当直体制

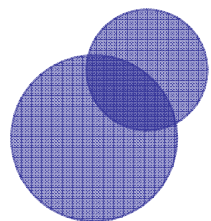
- × 常勤医（9名）と岡山大学病院所属の非常勤医（約7名）で、半々の割合で日・当直を担当している。
- × 常勤医の内、1名は60歳台、5名は50歳台、3名は40歳台であり、通常の日勤業務（外来診療、検査、手術、入院患者の診療）を終えて引き続き当直業務につき、次の日は通常通りの日勤業務についている。
- × 病院当直の本来の業務は、入院患者への緊急対応、夜間の病院管理責任者としての業務、緊急入院患者への対応などであり、外来業務は本来の業務ではない。



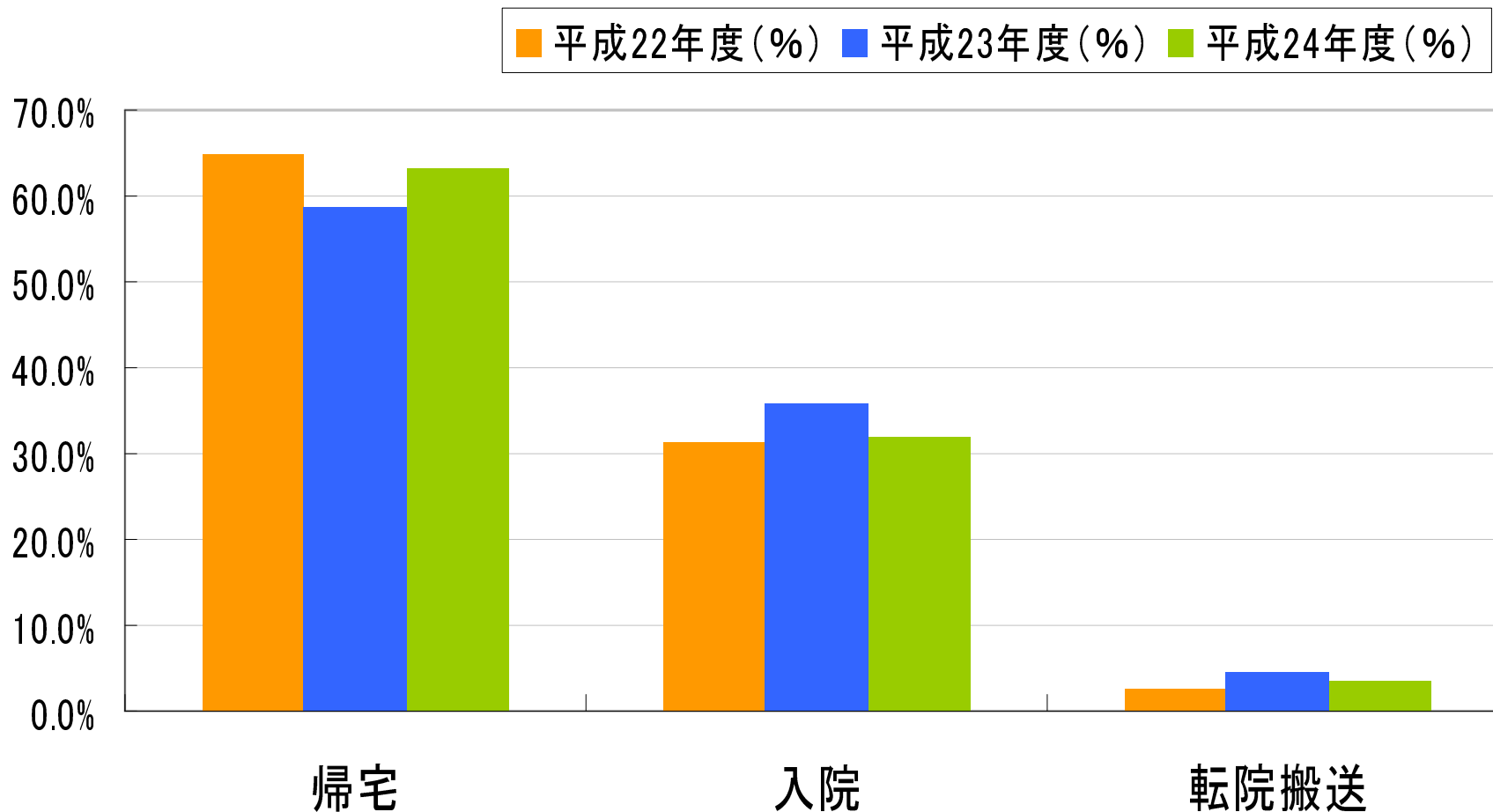
時間外救急患者数



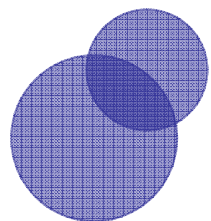
※ 時間外: 土・日・休日の昼間と夜間、平日の17時30分～翌日8時



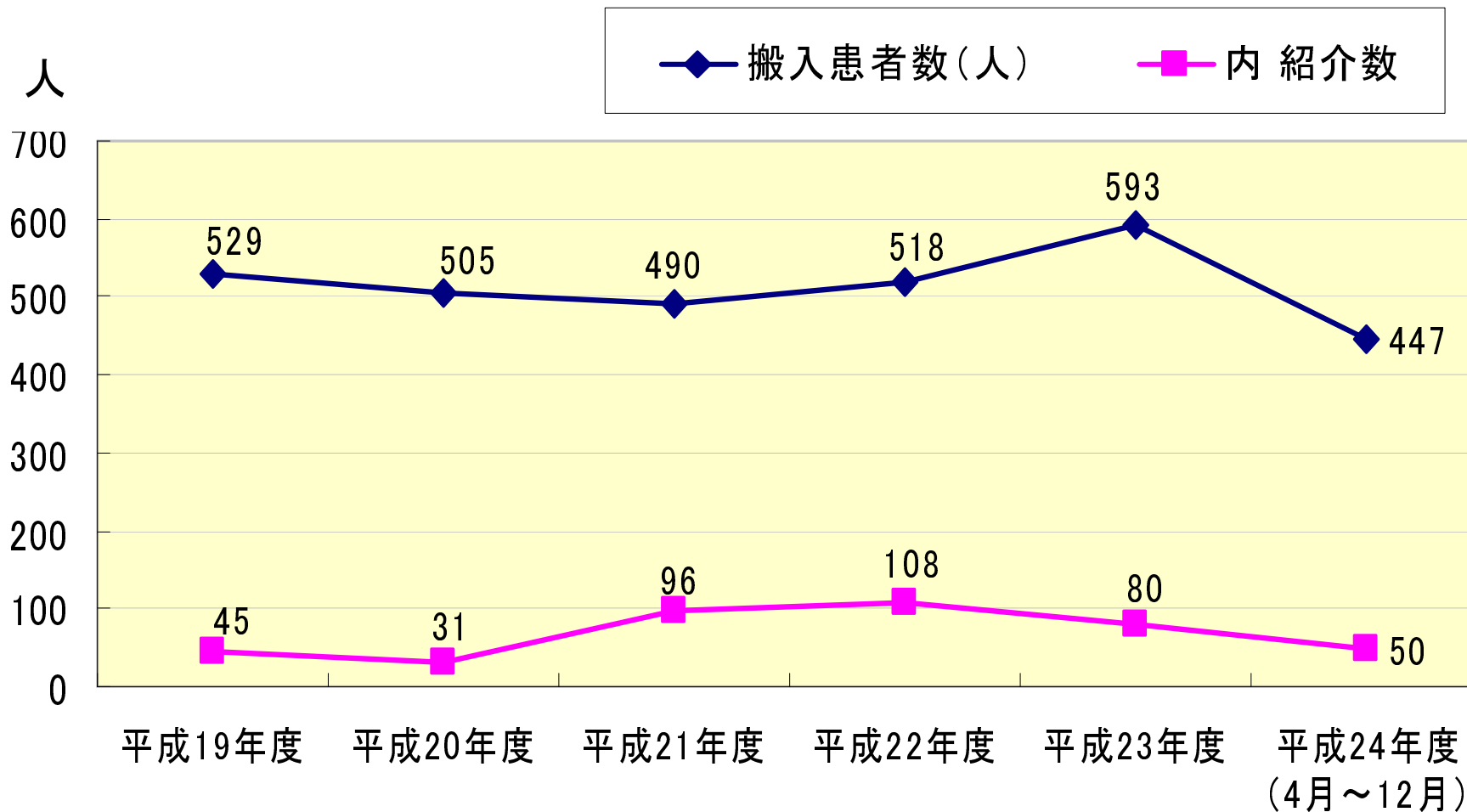
時間外救急患者に占める 「救急車以外で来院した」患者の転帰



※ 時間外:土・日・休日の昼間と夜間、平日の17時30分～翌日8時

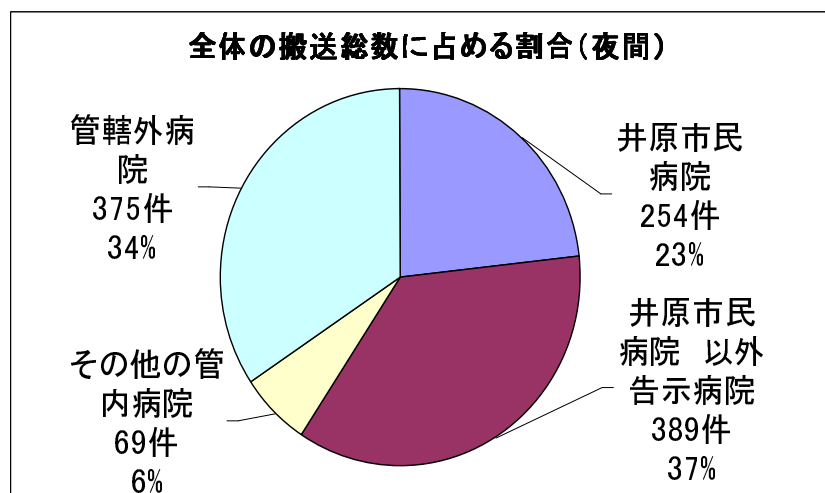
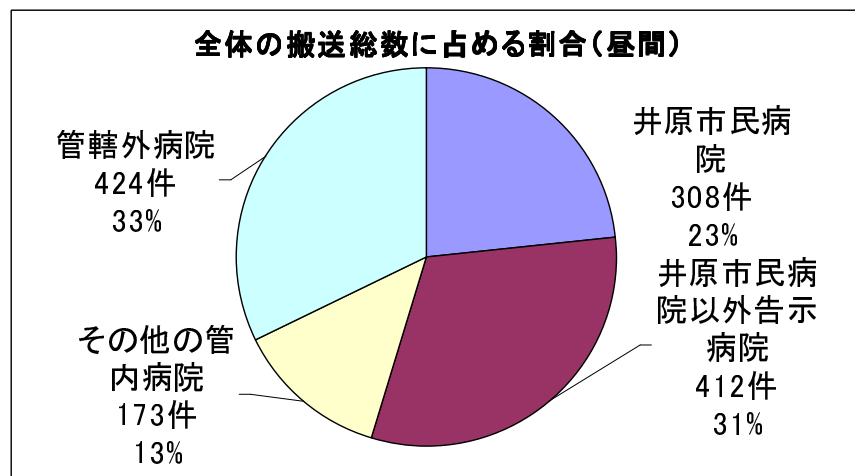
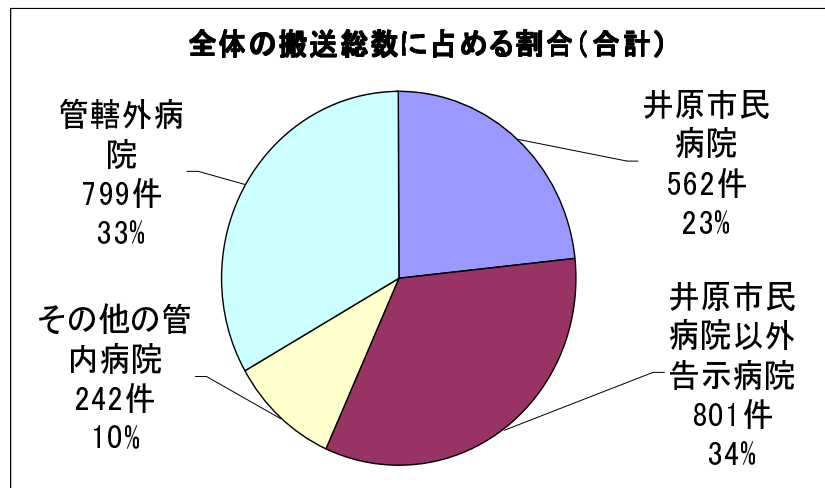


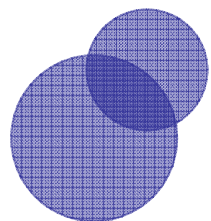
年度別 救急車受け入れ状況



平成24年(1月～12月)病院搬送件数 井原地区消防組合

1月～12月	井原市民病院	井原市民病院以外告示病院	その他の管内病院	管轄外病院	合計
昼間 (8:00～17:00)	308	412	173	424	1,317
夜間 (17:00～8:00)	254	389	69	375	1,087
計	562	801	242	799	2,404

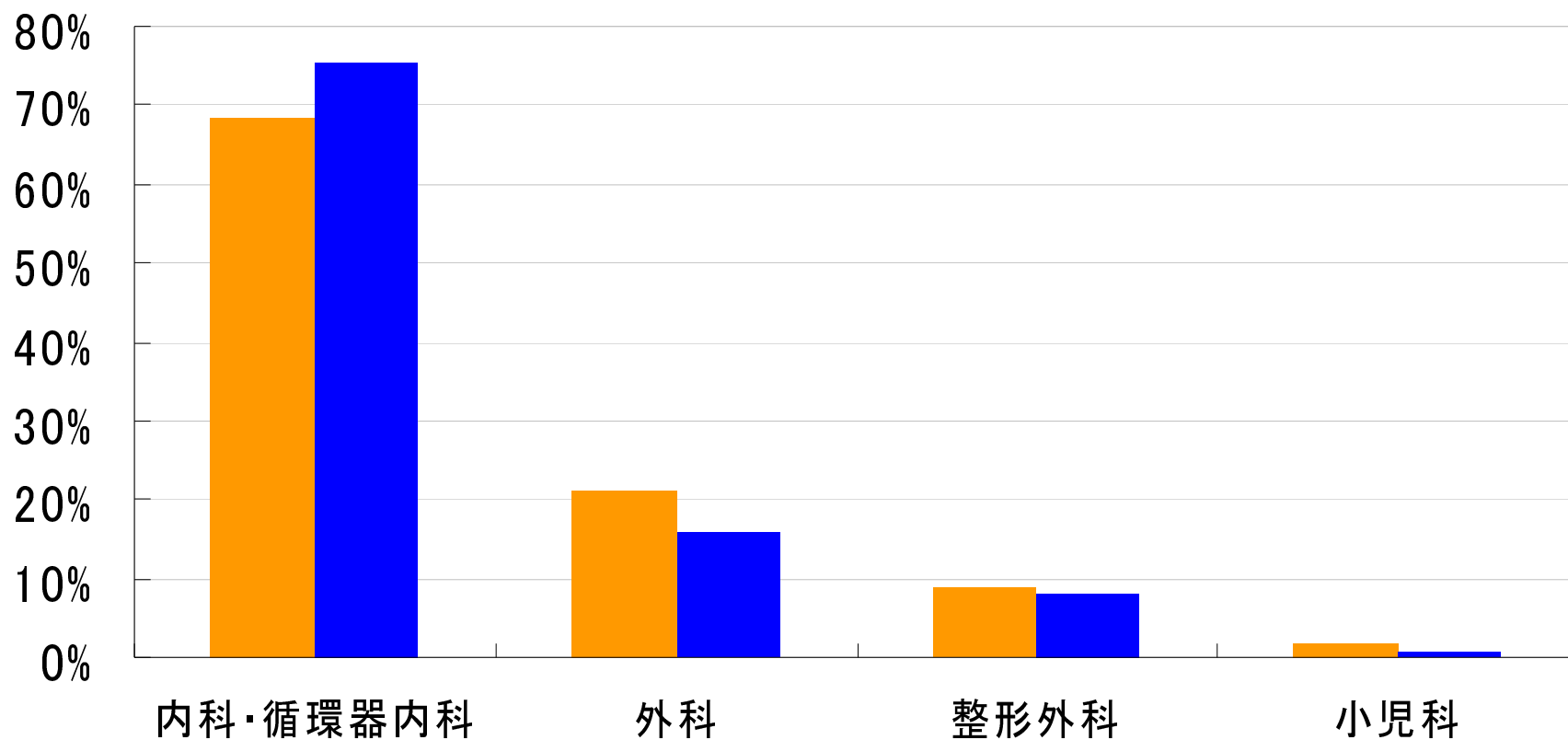


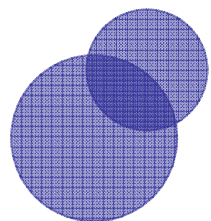


診療科別 救急車搬入患者割合



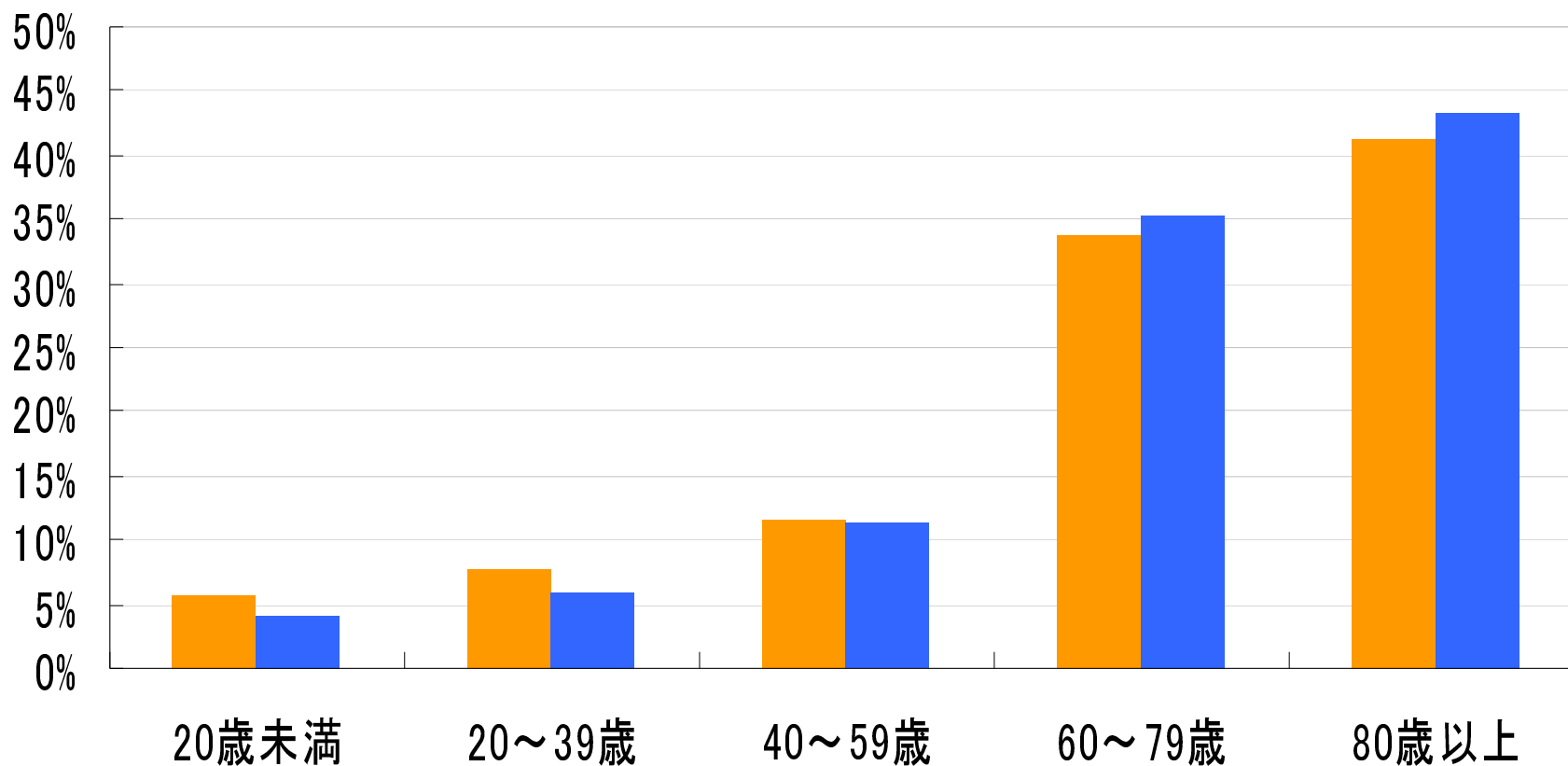
■ 平成22年度(%) ■ 平成23年度(%)





年代別 救急車搬入患者割合

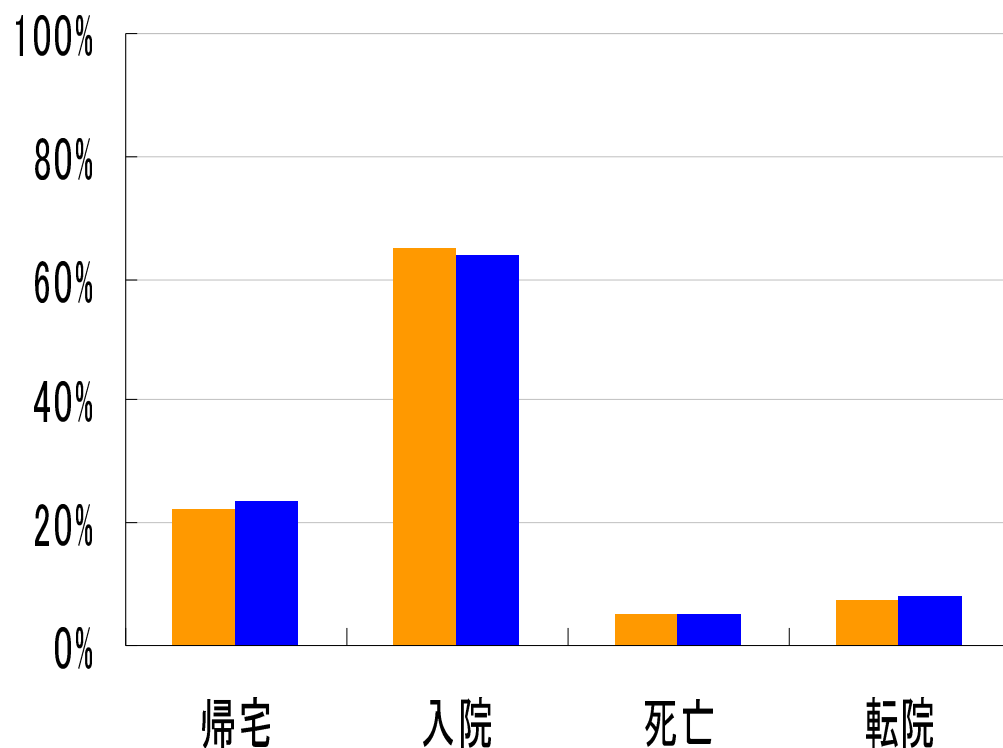
■ 平成22年度(%) ■ 平成23年度(%)



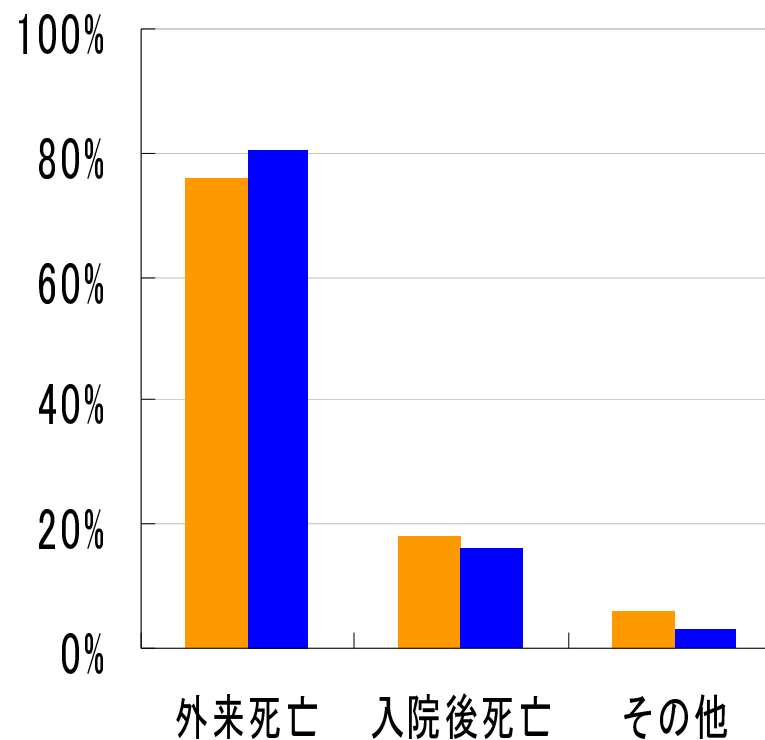
転帰

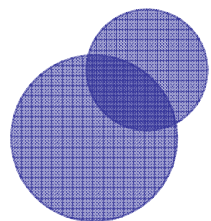
■ 平成22年度(%) ■ 平成23年度(%)

救急車搬入患者の転帰



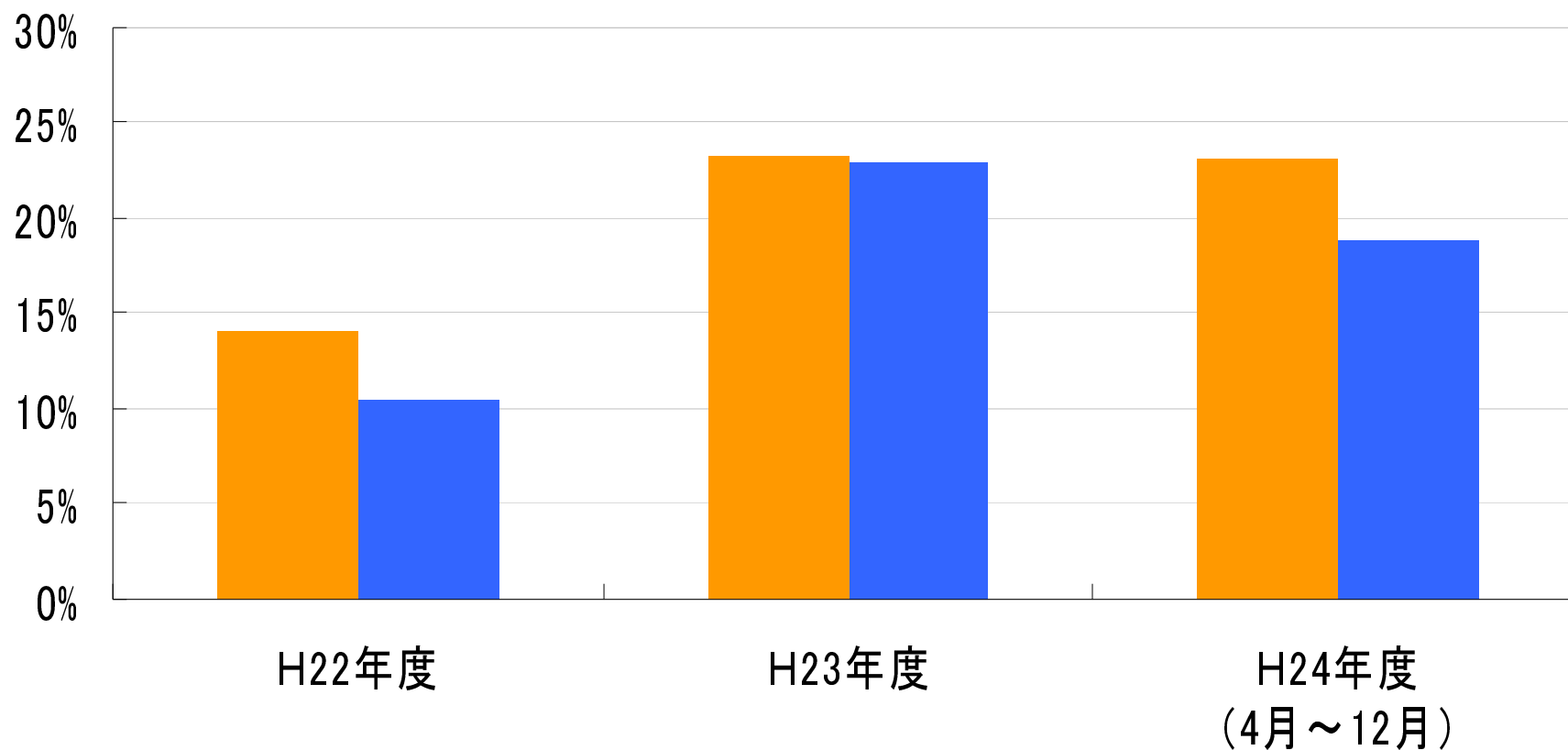
搬入時 心肺停止症例の転帰

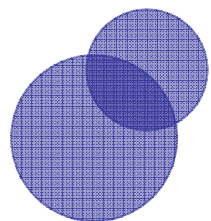




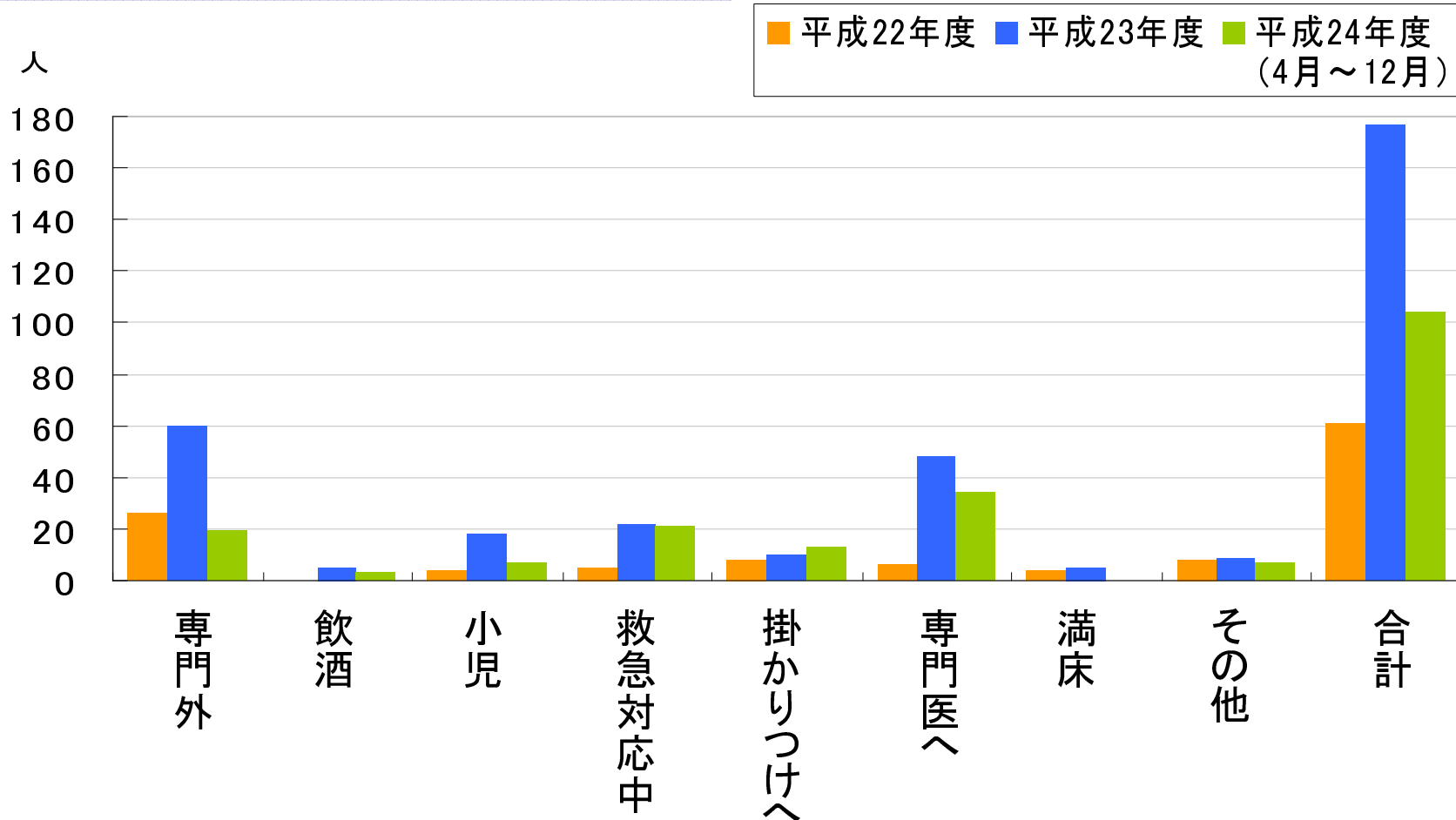
救急患者お断り率

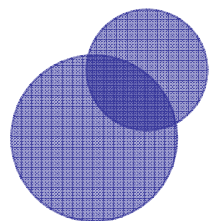
■ お断り総件数(%) ■ 救急車受け入れ要請に対するお断り率(%)





救急車搬入をお断りした理由

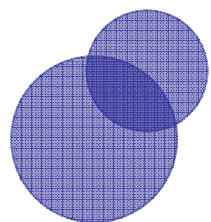




夜間・休日の救急外来を担当する 井原市民病院職員にアンケートを実施

(平成25年2月)

- ◆ 対象：井原市民病院の
医師・看護師・医療技術職員・
事務職員 計67名
- ◆ 回答：52名（回答率77.6%）
- ◆ 結果：勤務中に辛かった事、困った事
の経験がある職員は、
52名中39名（75%）であった

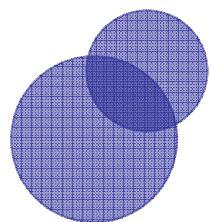


日・当直の勤務中に不快に思った // 疑問に思った

患者・家族に対して

回答52名(複数回答あり)

	不快に思った					疑問に思った					計
	医師	看護部	医療技術部	事務職員	計	医師	看護部	医療技術部	事務職員	計	
コンビニ受診		7			7		4		3	7	14
救急医療に理解不足	1	10		2	13		3	1	1	5	18
診療の限界		2		2	4					0	4
マナー		2		2	4	1	1			2	6
医療の専門性		1			1					0	1
直接来院される患者様の対応				1	1					0	1
小児科対応不可に対して				5	5					0	5
個人情報保護について				1	1					0	1
その他	1	3			4				1	1	5
計	2	25	0	13	40	1	8	1	5	15	55



地域の救急医療を改善するには

患者・家族に対して

回答52名(複数回答あり)

	医師	看護部	医療技術部	事務職員	計
救急医療に理解		7		3	10
情報の連携		1			1
延命		1			1
医療機関の正しいかかり方	1			1	2
当番医の理解				2	2
マナー				3	3
計	1	9	0	9	19

地域住民の方をお願いしたいこと

- × 市民みんなの病院です。受診ルールを守り、病院を大切にしましょう。絶対にコンビに受診は止めましょう。
- × 夜間・休日は検査や治療は緊急のもの以外はできませんし、投薬は種類も限られ、1~2日分しか出せません。従って原則として翌日の外来に再受診することを勧めます。
- × 料金は割高です。
- × 住民が一致協力して、地域に医師確保をしないと5~10年後には確実に地方の病院はなくなります。

まとめ

最後に、救急医療を守るためには

- × 医療の不確実性について理解すること。
- × 地域医療を守るのは地域住民であること。

救急医療の仕組みを理解し、受診ルールを守ること。すなわち地域住民の受診行動の**変革**が求められている。

- × 医療を受ける側、提供する側ともに、お互いに**感謝の気持ち**と**いたわりの心**を忘れないこと。

ありがとうございました。
おだいに。

小濱 啓次

あなたは 救命されるのか

—わが国の救急医療の現状と問題解決策を考える—

HERUSU SHUPPAN ◆ 005



HERUSU SHUPPAN

真々田 弘

Mamada Hiroshi

「崩壊」の現場と
ポリオの記録から



誰が医療を 守るのか

新日本出版社

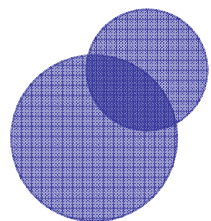
村田幸生

なぜ、患者と医者が
対立しなければならぬのか？
医療の不確実性の認識をめぐって

HERUSU SHUPPAN ◆ 018



HERUSU SHUPPAN



ご清聴ありがとうございました

